

# 郡山城 極楽橋



公益財団法人

郡山城史跡・柳沢文庫保存会

## ごあいさつ

当財団は設立より郡山城跡の積極的な保存管理を図るため、関係機関の協力を得て維持管理に努めてまいりました。

平成28年(2016)4月に、旧郡山藩ゆかりの市内篤志家より極楽橋再建を目的とする寄附金3億円を受け、本丸(天守曲輪)と毘沙門曲輪を結ぶ、本丸登城の正式ルートである極楽橋の再建が実現しました。

極楽橋が完成したことにより江戸時代の郡山城の姿に近づいた景観を城跡を訪れる人々に楽しんでいただけましたら幸いです。

公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会  
理事長 柳澤 とも子

## 再建の経緯

極楽橋再建は、当該地が奈良県指定史跡郡山城跡の範囲内であることから、郡山城極楽橋再建・白沢門櫓台整備委員会を設立(平成28年11月13日)し、極楽橋再建を進める上で十分議論を尽くし、必要な手順を踏んで進められました。現地の発掘調査を行い、また、本丸側の白沢門櫓台石垣の安定・安全性が危惧されたため、文化財保存事業費等の補助金の交付を受け、白沢門櫓台石垣整備工事を行い、そののち極楽橋の再建工事に着手し、令和3年2月に完成しました。再建にあたって市民団体の「明日のお城と城下町を考える会」にもご協力をいただきました。

### 郡山城極楽橋再建・白沢門櫓台整備委員会

	氏名	専門分野
委員長	北垣 聰一郎 氏	城郭石垣
副委員長	菅谷 文則 氏	考古学 ※令和元年5月31日まで在任
	西形 達明 氏	地盤工学
	河田 克博 氏	建築史・意匠

表紙の題字は柳沢文庫が所蔵する歴史資料「福寿堂年録」からとったものを組み合わせています。

※福寿堂年録(奈良県指定有形文化財) 柳澤家初代郡山城主柳澤吉里の公用記録。

極楽橋竣工時撮影：株式会社プライズ

## 極楽橋について

極楽橋の名称は、享保9年(1724)に郡山城主となった柳澤吉里よしにより名づけられたと考えられます。

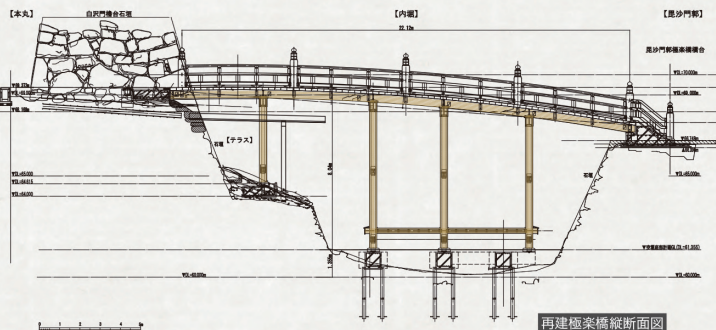
正確な建造時期は不詳ですが、正保年間(1640年代後半)作成の現存最古の郡山城図にも描かれていることから、江戸時代前期にはすでに存在したことがわかっています。郡山城の本丸を守る内堀には、極楽橋と竹林橋(現在の柳澤神社参道)の2つの木橋が架けられましたが、とくに極楽橋は「表」の橋と位置付けられ、本丸への正式な出入口として重視されました。明治維新後の廃城の過程で撤去されましたが、長らく再建が望まれていました。



和州郡山藩家中図(部分) 柳沢文庫所蔵

## 極楽橋の設計方針

橋の設計にあたっては、江戸時代の大工棟梁らが使用した雛形図等にある伝統的な技法を参考とし、江戸中期以降の外観再現を目指しました。極楽橋の構造を詳細に示す指図や写真などは伝来していませんが、発掘調査の成果や、絵図・古文書の調査から得られた情報も活用しました。



再建極楽橋縦断面図

## 郡山城極楽橋再建・白沢門櫓台石垣整備事業

郡山城極楽橋再建工事

令和2年3月～令和3年2月

極楽橋概要

架橋規模・形態	長さ 22.12m 幅 5.4m 形態 5径間の宝珠柱高欄付き反り橋 高欄高 1.1m 宝珠男柱高 2.0m 宝珠女柱高 1.885m 床板厚 13.6cm
---------	--

宝珠柱高欄・床材 奈良県産松無垢材

木質構成部材 行桁(桁梁) 木造部分 米松無垢材  
橋脚 米松材(芯材に鉄骨)

施工業者 株式会社熊谷組 関西支店

宮大工 株式会社鶴工舎

設計・監理 株式会社構造計画研究所

城郭専門コンサルタント 株式会社空間文化開発機構

郡山城白沢門櫓台石垣整備工事 平成30年9月～令和元年6月

施工業者 株式会社栗田建設(穴太衆)

設計・監理 株式会社空間文化開発機構

総工費

約3億1千5百万円



極楽橋の通行に関しては時間制限を設けております。

 **柳沢文庫**  
Yanagisawa Bunko Museum

公益財団法人 郡山城史跡・柳沢文庫保存会

〒639-1011 奈良県大和郡山市城内町2-18

TEL / FAX 0743-58-2171

E-mail [info-yngbun@mahoroba.ne.jp](mailto:info-yngbun@mahoroba.ne.jp)

<http://www.mahoroba.ne.jp/~yngbunko>

<https://www.facebook.com/yanagisawabunko>



柳沢文庫  
ホームページ

# 発掘調査

平成30年1月から令和元年10月にかけて発掘調査を行いました。

## 極楽橋跡(堀底部分)発掘調査

毘沙門曲輪と本丸を隔てている内堀の底から、極楽橋のものと思われる礎石や、礎石を乗せていた根石がみつかりました。



調査の結果、下層より礎石が9つ発見されたことから、江戸前期に築造された極楽橋の規模は2間×2間の総柱構造であったことがわかりました。またその上層からは礎石を据えた痕跡(根石)が6ヶ所見つかったことから、江戸中期から後期の極楽橋は、1間×2間の規模に縮小されていたことも判明しました。

## 白沢門跡発掘調査

白沢門は極楽橋の本丸側に建てられた櫓門です。現在は櫓台石垣のみが残っていますが、調査で門の礎石や排水施設を確認しました。



礎石の配置状況から、北側に大門扉、南側に潜り戸が設けられたことがわかりました。櫓門の西辺には石組溝を作り、通路部に設けた暗渠と接続して内堀へ排水していたことも明らかになりました。

# 郡山城白沢門櫓台石垣整備工事

白沢門の櫓台石垣は<sup>ほら</sup>孕み出しや<sup>ゆる</sup>弛みなど変形が進んでいました。遺構の保全と歩行者の安全を確保するため、石垣を解体修復しました。修復工事は、<sup>あいのしゅう</sup>穴太衆の伝統的の石積み技術を継承する株式会社粟田建設が行いました。また、解体に伴う調査によって、白沢門櫓台は文禄期から慶長期初頭に作られ、南櫓台のみ近代に積み直されたことがわかりました。



北櫓台



南櫓台



# 郡山城極楽橋再建工事

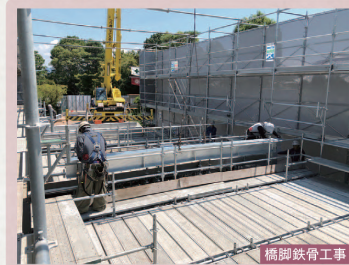
再建工事は、内堀底にある橋脚などの遺構保存、現存する石垣の保全、また、歴史的景観維持を考慮した設計に基づき行われました。



本丸(天守曲輪)から毘沙門曲輪を望む



## 橋脚



橋脚鉄骨工事



橋脚礎石据付完了



橋脚木工事



足場解体完了

## 枕梁・行桁梁



枕梁木工事

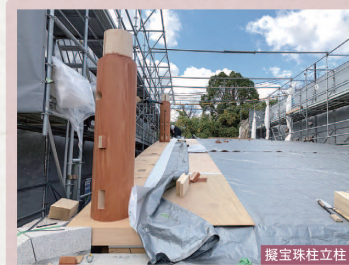


行桁梁架橋



床板取付

## 橋台(毘沙門曲輪側)・擬宝珠



擬宝珠柱立柱



高欄組立



擬宝珠金物取付



南側から内堀を望む